

## 商品市況展望

平成 25 年 5 月 26 日記

### ヘッジファンドの先物「高速取引」、株安加速か

東京株式市場は 24 日も大きく揺れ動いた。  
市場参加者の不安心理がヘッジファンドなどによる高速取引で増幅されているとの指摘もある。  
長期金利や円相場がどう動くかも今後の株価を左右する。

#### ◆不安増幅

株価の動きを左右したのは円相場の動きだった。  
日経平均株価（225 種）は 1 ドル＝102 円 59 銭まで円安・ドル高が進んだ午前 9 時 15 分ごろに、前日終値比で 520 円以上上昇した。ところが午後に入って円が対ドルで 101 円台に上昇すると一気に下落に転じ、円が 1 ドル＝101 円 05 銭に上昇した午後 1 時 45 分頃には、日経平均の下げ幅がこの日最大の 502 円に達した。

円高になると輸出関連株に売り注文が集まるが、この間の激しい変動はヘッジファンドなどが得意とする先物市場での高速取引が招いたとの見方もある。**1000 分の 1 秒単位で売買を繰り返す手法で、株価の下落が見込まれれば大量の売り注文を出す。**先物価格の急ピッチな下落で、不安にかられた投資家による現物株の売りが殺到した、との見方だ。

東証の現物株市場でも高速取引が約 4 割を占める。「高速取引が売りを膨らませた」（大手証券）との指摘もある。

（2013 年 5 月 25 日 13 時 25 分 読売新聞）

23 日に大暴落し、24 日も乱高下した東京株式市場であるが、昨年秋から今までの動きの中で 8,000 円→16,000 円まで 2 倍になったわけなのだから、何らかのきっかけがあれば利食い売りが殺到するのは当然だったと言える。8,000 円上げの半値押しなら 4,000 円、3 分の 1 押しでも 2,600 円はあるわけで、株価は上がったたり下がったりするものなのだから、悪役探しはナンセンスではある。

しかし、この**高速売買＝アルゴリズム取引**に関しては、当方も元々、否定的だ。商品先物市場においても、この取引とディーリング売買、そしてサーキット・ブレイカー制度が個人投機家を痛めつけ、市場荒廃の主因となった事は事実だ。売買注文が早く入るのは良い事だが、コンピュータによる自動売買の高速プログラムには、規制が必要だとの考え方だ。

これが発動されると、板は完全に見せ板となり、大した売買も出来ないうちに値が飛んで相場は空中戦の様相を呈してしまい、個人の売り買いは必ず不利な価格で約定させられるゆえに。現物売買なら追証が無いから耐えられるけれども、レバレッジの効いた先物では、投げが出るまで下がる、踏みが出るまで上がるを繰り返す事となり、相場観など全く無意味のものになってしまうからねえ。

## 〔貴金属〕

○東京金日足

…削除済み…

### 今週の金の値動き

	6月限(当限)	前日比	4月限(先限)	前日比
5月20日	¥4,444	-122	¥4,443	-118
5月21日	¥4,603	159	¥4,611	158
5月22日	¥4,554	-49	¥4,556	-55
5月23日	¥4,499	-55	¥4,501	-55
5月24日	¥4,548	49	¥4,550	49

金相場は、先週号においては『東京市場では円安が相場の支えとなっているものの、NY市場ではまだ弱いまま。底入れを確認するまでは、売り中心の逆張りがベターであろう』とコメントした。

今週の相場展開は、週明けの暴落では**4,430円まで下落**。5/2の安値4,514円を切り、Wトップの完成となったものの、翌21日は逆に急騰。4,600円台まで戻した。

その後も乱高下を続けた相場は、**高値は4,682円(5/23)**まで記録であり、この日は高安で180円の動きとなった。

…中略…

現状での上値抵抗線は**4,760円**であり、次は**5,078円**。下値抵抗線は**4,430円**で、その下が**4,132円**である。株式市場も高値波乱の様相であり、為替も日によっては一発で2円動く展開となっており、次のトレンド発生まではわかりづらい相場となるのだろう。

この情勢では、売りも買いも安心というわけにはいかない。怖いところを逆張りするのがベターなのだろうし、短期売買を心がけるのが良いだろう。

なお一代の動きは以下のとおり。

### 東京金一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年6月	¥4,023	6月27日	¥5,068	2月7日	¥3,940	7月24日	¥4,548
2013年8月	¥4,224	8月29日	¥5,873	2月7日	¥4,125	4月16日	¥4,542
2013年10月	¥4,404	10月29日	¥5,077	2月7日	¥4,129	4月16日	¥4,543
2013年12月	¥4,519	12月25日	¥5,081	2月7日	¥4,131	4月16日	¥4,550
2014年2月	¥4,759	2月26日	¥4,979	3月21日	¥4,132	4月16日	¥4,550
2014年4月	¥4,585	4月25日	¥4,760	5月10日	<b>¥4,430</b>	<b>5月20日</b>	¥4,550

○NY金日足

…削除済み…

5/24のNY市場では、前日比**5.2ドル安**の**1386.6ドル**での終了。高値は**1397.1ドル**まであったが、**1400ドル台**回復はならずである。

為替は 101.04 円と円高であり（円高は 100.64 円までであった）、換算では 20 円安である。

先週号で「NY 金のチャートは明らかに 2 番底を付けに行っている動きだが、ここで止まらず 1321.5 ドルも割り込めば、底抜けする」とコメンしたが、安値は 1336.3 ドル（5/20）とかろうじて踏みとどまっの反発だが、引け値ベースで 1400 ドル台を回復しないと、2 番底決定とも言いづらいところ。

いずれにせよ、大勢では 1487.2 ドルが上値抵抗線であり、このところずっとコメントしている「NY 金の 1500 ドルは一つの壁。1526 ドルが大きな壁だと見ており、再び売られた場合は 1200 ドルまでは下げる」という見方は、まだ崩していない。

本当の上昇相場に入るためには、まずは 1487.2 ドルオーバー、次に 1500 ドル回復というのが条件となるだろう。ただし引け値で 1400 ドル回復なら、一時的には買っても面白いと思っているが。

東京市場はそれに加味して、為替相場の影響が大だ。…中略…

なお CFTC 発表の 5/21 現在のファンドのポジションは、…中略…

5/24 現在での ETF 残高は、…中略…

ピーク時の 1800 トンから減り続けている。

このデータを見る限り、金離れはまだ続いていると言える。米国際金融資本は、金に資金が入る事よりも、米国債や株式に人気が集中するように策動しているという事なのだろう。

なお週明けの米国市場は、メモリアルデーで休場である。

結論として当方の相場観は、どちらかと言えば、まだ戻り売り有利の逆張りであろう。怖いところを逆張りする必要がある相場であり、短期売買に徹するのが良いだろう。

○東京プラチナ日足

…削除済み…

今週のプラチナの値動き

	6月限(当限)	前日比	4月限(先限)	前日比
5月20日	¥4,812	-88	¥4,832	-92
5月21日	¥4,904	92	¥4,911	79
5月22日	¥4,859	-45	¥4,873	-38
5月23日	¥4,780	-79	¥4,801	-72
5月24日	¥4,790	10	¥4,806	5

プラチナ相場は、先週号においては『金とは逆に、買い中心の逆張りがベターな状況と考える。プラチナが大きく崩れるには、株式市場の急落が発生しないと現状では難しいのだろう。かと言って急騰するほどの材料も無く、金が立ち直らないと上値追いも困難だろうから』とコメントした。

今週の相場展開は、週明けに 4,765 円の安値まで記録した相場が、翌日には 4,975 円まで 210 円の反騰。その後も乱高下を繰り返す展開で終了。

このところの展開は、4月に 5,000 円→4,310 円までの大暴落を演じたところから戻してはいるものの、5,000 円は壁になっており、かと言って大きくも下がらない情勢である。しばらくはこの逆張りの展開が続くのだろう。

もみ合いの範囲は、4,600 円～5,000 円の範囲を想定している。

さてジョンソン・マッセイ社の需給報告では、今年も若干の供給不足とされているプラチナは、南アの問題もあって底堅いわけだ。東南アジアを中心に、自動車販売も好調を維持している状況でもあるし。

ただし現状では、…中略…

なお一代の動きは以下のとおり。

東京プラチナー代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年6月	¥3,681	6月27日	¥5,267	2月7日	¥3,460	7月24日	¥4,790
2013年8月	¥3,860	8月29日	¥5,274	2月7日	¥3,807	8月31日	¥4,773
2013年10月	¥3,998	10月29日	¥5,288	2月8日	¥3,933	10月30日	¥4,779
2013年12月	¥4,249	12月25日	¥5,300	2月8日	¥4,236	12月25日	¥4,803
2014年2月	¥4,831	2月26日	¥5,052	3月12日	¥4,310	4月16日	¥4,806
2014年4月	¥4,622	4月25日	¥4,999	5月16日	¥4,610	5月2日	¥4,806

○プラチナー金価格差日足

…削除済み…

週末現在のサヤは、4,806 円（プラチナ）－4,550 円（金）＝256 円。…中略…

結論として当方の相場観は、もみ合い相場の継続であろう。抜けるには何らかの新たな材料が必要だろうと見ている。

## 〔穀物〕

○東京コーン日足

…削除済み…

今週のコーンの値動き

	7月限(当限)	前日比	5月限(先限)	前日比
5月20日	¥34,160	300	¥27,430	-60
5月21日	¥34,200	40	¥27,130	-130
5月22日	¥34,180	-20	¥27,360	230
5月23日	¥34,270	90	¥27,290	-70
5月24日	¥34,250	-20	¥27,530	240

まずはコーンから…

先週号においては『買う気にも、売る気にもならぬ相場である。何らかのインパクトのある材料が出るまでは、仕掛ける気は全くない』とコメントした。

今週の相場展開は、27,000円台でのみ合いのまま。

完全に相場は膠着状態に入っており、現在は27,000円～28,000円の狭いみ合いレンジに入っている。天候相場期中だということに、これでは全く盛り上がりに欠けている。

遅れていた作付は、次回の発表では85～92%終了となるのでは？と期待されている。ともかく今年の生産高は、天候が順調に推移するならばだが、「前年の107億8,000万Bu→141億4,000万Buへ、在庫率6.8%→15.5%と劇的に改善する」と見られているわけだ。だからこそ大きく逆ザヤになっているわけであり、先物の買い人気は盛り上がりえないわけだ。

なお一代の動きは以下のとおり。

東京コーン一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年7月	¥21,550	6月18日	¥34,400	3月22日	¥21,490	6月18日	¥34,250
2013年9月	¥28,500	8月16日	¥31,260	5月23日	¥25,510	10月1日	¥30,910
2013年11月	¥25,600	10月16日	¥27,970	2月6日	¥24,420	11月14日	¥27,400
2014年1月	¥25,700	12月17日	¥28,170	2月5日	¥24,930	12月21日	¥27,270
2014年3月	¥27,290	2月18日	¥27,900	4月12日	¥25,690	4月4日	¥27,310
2014年5月	¥26,550	4月16日	¥28,070	4月22日	¥26,520	4月30日	¥27,530

9月までは旧穀。11月以降は新穀である。だからこんなサヤになっている。

○シカゴコーン日足

…削除済み…

週末5/24のシカゴ市場は、7月限で前日比4.75セント安の657.25セント。12月限では1.75セント高の536.50セント。

新穀の国内換算では、90円高となる。

チャートは綺麗なW底からの上昇波動であったが、5月限→7月限への限月移行で一気に元の木阿弥に。新穀は更に1ドル以上下にいるわけで、もっと下である。

ただしこのところの動きを見る限り、7月限は若干だがサヤ出世しているし、新穀も旧穀へ若干だがサヤ寄せしている。今後、幾らかはサヤを詰める動きになるのだろう。

なおCFTC発表の5/21現在のファンドのポジションは、…中略…

作付進捗率は、4/12時点28%→4/19時点71%まで一気に改善。来週は4/26時点が出るわけだが、前述のとおり85~92%まで進んでいるのでは？と見られているわけだ。

19日時点の過去5年平均は79%、去年は95%だったゆえ、もうそんなに遅れはないわけだ。ただし去年は進捗率が高かったが、その後のホット&ドライで結果不作だったわけだし(一時は100億Bu台の確保も難しいとされたが、それは無かった)、作付が進んだからどう、進まかなかからどう、だけではないわけだが。

結論として当方の相場観は、目先は多少、新穀と旧穀の逆ザヤを詰める動きが出るかもしれないが、相場のトレンドに変化を与えるほどのものではないだろう。仕掛け妙味はないだろう。

○東京大豆日足

…削除済み…

今週の大豆の値動き

	6月限(当限)	前日比	4月限(先限)	前日比
5月20日	¥66,800	-600	¥53,380	70
5月21日	¥65,810	-990	¥53,120	-260
5月22日	¥67,380	1570	¥53,230	110
5月23日	¥67,000	-380	¥53,210	-20
5月24日	¥67,000	0	¥53,190	-20

続いて一般大豆です…

先週号においては『面白いのは期近～中物の相場であり、先物は大きく動かないだろう。一般には勧められない相場である』とコメントした。

今週の相場展開は、53,000円台での横ばい推移。23日だけは一瞬54,000円台に駆け上がったが、すぐに失速である。

これは先週まで一代高値を更新していた旧穀と、全く上がらなかった新穀の裁定取引が入ったのであろう。強い旧穀を買い、弱い新穀を売りしていた向きが手仕舞いすると、当然旧穀を売り、新穀を買いの手口となるゆえに。

先物チャートは、およそ5万円～54,000円の4,000円幅のレンジが天候相場期入り以降動いているわけだが、旧穀の10月限はそれよりも14,000円高い67,000円という価格になっているわけだ。

例えば今年2月後半の時点で10月限買い、2月限売りを仕掛けたとする。2/22引け現在では、10月限56,850円、2月限53,300円である。という事は、

○ 10月限 56,850円買い→66,900円=10,050円の儲け

○ 2月限 53,300円売り→53,340円=40円の損、という事であり、差し引き10,010円の儲けである。

こうなるのも、今年の生産高が「前年の30億1,500万Bu→33億9,000万Bu、在庫率4.1%→8.1%」へ改善するとの予測があったわけで、だからである。

ただしコーンよりはまだ在庫率も低いため、これ以上は極端に逆ザヤが進むかどうかはわからない。内部要因次第だろう。

なお一代の動きは以下のとおり。

東京一般大豆一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年6月	¥44,700	6月18日	¥70,000	5月14日	¥44,400	6月18日	¥67,000
2013年8月	¥48,020	8月16日	¥64,900	5月16日	¥47,500	11月13日	¥63,800
2013年10月	¥47,220	10月16日	¥67,600	5月16日	¥46,920	10月16日	¥66,900
2013年12月	¥50,680	12月17日	¥56,600	5月23日	¥48,450	1月9日	¥55,070
2014年2月	¥53,000	2月18日	¥54,410	5月23日	¥50,150	4月4日	¥53,340
2014年4月	¥50,910	4月16日	¥54,180	5月23日	¥49,850	5月2日	¥53,190

○シカゴ大豆日足

…削除済み…

週末 5/24 のシカゴ市場では、7 月限で前日比 23.25 セント安の 1476.25 セント。11 月限では 4.75 セント高の 1247.75 セント。

…中略…

なお CFTC 発表の 5/21 現在のファンドのポジションは、…中略…

結論として当方の相場観は、急騰も急落もまだあまり期待出来ないだろう。もみ合い継続の相場であり、しばらくは横ばいであると見る。



## [ゴム]

○東京ゴム日足  
…削除済み…

### 今週のゴムの値動き

	5月限(当限)	前日比	10月限(先限)	前日比
5月20日	276.1	3.4	289.5	1.7
5月21日	276.5	0.4	288.4	-1.1
5月22日	278.6	2.1	290.3	1.9
5月23日	264.1	-14.5	275.0	-15.3
5月24日	260.8	-3.3	270.8	-4.2

先週号においては『ストップロスを276.3円割れに置いての買い方針が良いと考える。逆三尊底形成からの上昇に、ちょうど良い押しが入ったとの見方であり、東京市場は割安であるとの考えである』とコメントした。

今週の相場展開は、22日までは堅調な動きとなっていたが、23日には株式市場の暴落の影響から一気に下抜け、週末には安値で**265.9円**まで記録。

299.0円(5/13)→276.3円(5/16)までの下げは単なる調整であったが、ストップロス設定価格も割り込んだ今週の下げは、株式市場のせいだとは言えるものの、先行きに暗雲漂う展開の下げとなった。

ズバリ結論から先に言えば、逆三尊の底入れからの上昇は、**299.0円で目先天井**を打つただろう。**242.6円はまだ底**であるが、そこまでの上下56円幅の中で、今はちょうど中間地点。トレンドは押し目買いから、逆張りもみ合いへとの変化であろう。

なお一代の動きは以下のとおり。

### 東京ゴム一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年5月	259.7	11月27日	329.0	2月6日	233.4	4月18日	260.8
2013年6月	286.0	12月21日	334.1	2月4日	236.7	4月18日	262.3
2013年7月	316.3	1月28日	337.8	2月6日	240.4	4月18日	265.8
2013年8月	301.0	2月25日	302.1	2月25日	241.3	4月18日	266.7
2013年9月	279.5	3月26日	297.7	5月13日	242.5	4月18日	268.8
2013年10月	253.7	4月24日	299.0	5月13日	250.8	5月2日	270.8

当先のサヤは、5月限260.8円～10月限270.8円と**10.0円の順ザヤ**。順ザヤ幅は縮小であり、これは先高人氣が大きく後退したためだろう。

**週末現在の輸入採算価格は、…中略…**

国内営業倉庫在庫は、5/10現在で457トン減の15,637トン。3旬ぶりの減少である。

上海ゴム在庫は、…中略…

上海ゴム価格は、完全に 2 万元台を割り込んで悪化。今回の東京株式市場の急落も、中国の経済指標の悪化も材料の一つであり、上海ゴムの下落もある意味当然だった。

ゴム自体の材料は、特に聞こえてきていない。とにかく一発でストップロスに引っかかる急落が来たのだから、一息おいて、次のトレンドを探るのがベターであろう。

結論として当方の相場観は、株式市場の急落から一気にストップロス確定。299.0 円は天井であり、242.6 円もまだ底値であるが、次のトレンド発生までは逆張りの時期に移行したと見ている。

## 〔原油・石油製品〕

○NY 原油日足

…削除済み…

まずは原油から…

先週においては『押し目買い一貫の相場であろう。地政学的リスクの他、円安が東京市場のトレンドを強くしており、本来ならば弱材料となる米国のシェールガスの増産も値を崩す要因となっていない。根が強い相場の証ではあるまいか』とコメントした。

今週の相場展開は、NY 原油は 97.11 ドル (5/20) までは戻り歩調だったが、その後に急反落。23 日には一時 92 ドル台まで下げ、週末 5/24 は前日比 0.1 ドル安の 94.05 ドルでの終了である。なお NY 市場の週明けはメモリアルデーの休日のため、週末は連休前の立会いであった。

チャートでは、98 ドルが上値で、85 ドルが底値。このところは 92~97 ドルでの推移であり、その中での乱高下という展開だ。

先週号では押し目買い一貫の相場としたが、今回も 97 ドル台で上値がつかえたところを見ると、どうも「弱くもないが、強くもない相場」だと相場観を訂正する必要があるようだ。

なお 5/24 現在のロンドンブレントは…中略…

また 5/21 現在のファンドのポジションは、…中略…

○東京原油日足

…削除済み…

今週の東京原油の動き

	5 月限(当限)	前日比	10 月限(先限)	前日比
5 月 20 日	¥64,550	230	¥64,500	510
5 月 21 日	¥64,600	50	¥64,830	330
5 月 22 日	¥64,300	-300	¥64,020	-810
5 月 23 日	¥63,700	-600	¥62,180	-1840
5 月 24 日	¥63,950	250	¥62,520	440

東京原油は、株式市場がクラッシュした 23 日の急落で、一気にチャートが悪化。週末は 61,520 円と更に下げたが、そこからは 1,000 円戻した。

チャートではちょうど一目均衡表の雲で止まったところであり、57,000 円で W 底を打った後のネックライン 62,000 円は上昇トレンドの下値支持線でもある。

目先の天井となった 65,000 円 (5/20) からは 3,500 円の下げとなったわけだが、NY 原油高&為替の円安が再びやって来れば、まだこの価格は天井ではなかったという可能性は残る。ただし一方で、もう一度 62,000 円を割り込んで下げてゆけば、まずは 6 万円まで下がるとも読め、微妙なところとしか言い様がない。

少なくとも先週号でコメントした「押し目買い一貫の相場であろう」という相場観だけは、かなりトーンダウンせざるを得ないか。

…中略…

なお一代の動きは以下のとおり。

東京原油一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年5月	¥54,860	12月3日	¥66,830	2月12日	¥52,370	12月11日	¥63,950
2013年6月	¥58,080	1月4日	¥66,690	2月13日	¥57,320	1月8日	¥63,490
2013年7月	¥62,910	2月1日	¥66,460	2月13日	¥57,780	4月18日	¥63,190
2013年8月	¥60,560	3月1日	<b>¥65,240</b>	<b>5月21日</b>	¥57,360	4月16日	¥62,920
2013年9月	¥62,370	4月1日	<b>¥65,100</b>	<b>5月21日</b>	¥57,370	4月18日	¥62,770
2013年10月	¥59,500	5月1日	<b>¥65,000</b>	<b>5月20日</b>	¥57,510	5月2日	¥62,620

結論として当方の相場観は、65,000円は目先天井であり、しばらくは64,000円近くまで戻れば売られるか。一方で6万円までの下げは、強気の相場観の中で許容範囲の下げであり、それに接近した場面は買い場となるだろう。逆張りの展開である。

○東京ガソリン日足

…削除済み…

### 今週のガソリンの値動き

	6月限(当限)	前日比	11月限(先限)	前日比
5月20日	¥73,350	40	¥74,610	250
5月21日	¥72,880	-470	¥75,140	530
5月22日	¥72,570	-310	¥74,280	-860
5月23日	¥71,590	-980	¥72,210	-2070
5月24日	¥72,450	860	¥72,700	490

続いてガソリンです…

先週号においては『押し目買い方針の継続である。7万円割れは無いとの見方であり、週末の急騰からすでに次の上昇トレンドが開始された可能性も高いと見ている』とコメントした。

今週の相場展開は、週明けは **75,590円** までの上昇であり、その後も堅調に推移していたが、23日には株式市場のクラッシュで急落。**安値は71,380円**を週末に記録であり、その後は1,000円以上戻して引けた。

W底の安値である **68,030円** (5/2) から上昇波動に入っていた相場は、**75,590円** (5/20) まで **7,560円** 幅の上昇の後、**4,210円** の下げと **55%** の下げである。

結論から先に言えば、よほどの原油安&円高が来ない限り、7万円も割れないだろうとは思っているものの、目先は **75,000円** も上値の壁になるかもしれない。先週号からの若干のトーンダウンは避けられまい。

なお一代の推移は、以下のとおり。

### 東京ガソリン一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年6月	¥67,980	11月26日	¥82,250	2月12日	¥66,480	12月10日	¥72,450
2013年7月	¥69,810	12月26日	¥82,280	2月13日	¥69,600	4月16日	¥73,870
2013年8月	¥76,550	1月28日	¥82,250	2月13日	¥69,600	4月16日	¥74,480
2013年9月	¥78,930	2月26日	¥79,590	3月12日	¥69,050	4月18日	¥74,000
2013年10月	¥74,630	3月26日	¥76,710	4月1日	¥68,150	4月18日	¥73,330
2013年11月	¥72,990	4月26日	<b>¥75,590</b>	<b>5月20日</b>	¥68,030	5月2日	¥72,700

5/24 現在の業者間転売価格は、…中略…

5/18 現在のガソリン在庫は、…中略…

結論として当方の相場観は、7万円をストップロスに押し目買い方針の継続である。しかし目先は **75,000円** も壁になるだろうから、戻りは利食いの逆張り対処が良いだろう。

○東京灯油日足

…削除済み…

### 今週の灯油の値動き

	6月限(当限)	前日比	11月限(先限)	前日比
5月20日	¥74,090	-40	¥76,810	100
5月21日	¥74,380	290	¥77,170	360
5月22日	¥73,910	-470	¥76,260	-910
5月23日	¥72,110	-1800	¥74,320	-1940
5月24日	¥72,480	370	¥74,820	500

最後に灯油です…

先週号においては『上昇トレンドに入っている相場であろう。押し目買い方針の継続で、1月限発会までの中長期での強気を維持したい』とコメントした。

今週の相場展開は、週明けには **77,820円** と2月以来の高値を記録するものの、そこからは反落。その後、23日には急落で74,000円台まで値を消し、週末は安値で **73,610円** まで記録し、そこからは1,000円以上戻しての終了である。

69,000円台でW底を打っている相場ではあるものの、75,000円を割り込んだ事により、それまで来ていた順調な上昇トレンドにも、若干陰りが出ている。

…中略…

なお一代の推移は、以下のとおり。

### 東京灯油一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年6月	¥67,680	11月26日	¥81,460	2月12日	¥64,690	12月11日	¥72,480
2013年7月	¥68,440	12月26日	¥81,700	2月12日	¥67,320	4月18日	¥72,800
2013年8月	¥74,200	1月28日	¥82,030	2月12日	¥67,720	4月18日	¥73,200
2013年9月	¥76,550	2月26日	¥76,980	2月26日	¥68,340	4月18日	¥73,760
2013年10月	¥74,090	3月26日	¥77,270	4月11日	¥69,000	4月18日	¥74,340
2013年11月	¥75,350	4月26日	<b>¥77,820</b>	<b>5月20日</b>	¥69,850	5月2日	¥74,820

5/24 現在の業者間転売価格は、…中略…

5/18 現在の灯油在庫は、…中略…

結論として当方の相場観は、大勢押し目買いに変化はないと考えるものの、目先は76,000円辺りは戻り売りを浴びるだろう。逆張りでの対処がベターか。

## [為替]

### ○ドル/円相場日足

…削除済み…

**103.73 円 (5/22)** まで円安が進んだ相場は、23 日の円高&株式市場・商品市場の急落で **100 円** 台へ。

前日までの黒田会見、バーナンキ会見を無難にこなした後に、思わぬ暴落となった株式市場に対しては悲喜交々だが、相場である限り、調整は致し方無し。

そう言えば個別銘柄では、22 日の時点でも値上がり銘柄よりも値下がり銘柄の方が多かったし、24 日の前場の先物市場先導による日経平均の上昇時もそうであった。それが昼には前日比変わらずの水準まで値を消していたわけで、その後の **1,000 円超の暴落も、見る人が見れば当然の話** と言ってもおかしくない情勢だった。

…中略…

### ○ユーロ/円相場日足

…削除済み…

ユーロ/円も **133.79 円 (5/22)** まで円安が進行した後、130 円までの円高に。週末の NY 市場でも 130.05 円の高値を記録している。

これも時間調整、指数調整の円高だろうとの、楽観的な見方をしているのが当方だ。

なお来週の主な予定は、…中略… などとなっている。

### ○ユーロ/ドル相場日足

…削除済み…

ドルは、対ユーロに関してはドル高の水準である。それだけ米国経済の方が、欧州経済よりも良いという現れなのだろう。

ただしこのようなドル高にいる場合は、米国市場のドル建て商品価格は上がりづらいわけであり、CRB 指数なども低い水準にいるわけだ。

---

このレポートは、私が個人的な判断で書いたものです。

内容の責任はすべて私に帰するものですが、取引に対する利益を保証するものではありません。

(当たり前ですが念のため)

ひげの中ちゃん相場情報

中田幸一郎

メールアドレス [info@higenaka.com](mailto:info@higenaka.com)